

ところは助け合う。

そういう集団があちこちで農地を耕し、農産物を加工し、余剰収穫物を分け合う。そして多様な

流通があり、多種類の農産物や加工品が流通する。それが人が生き、自然が生きる農業であり、これからの未来を切り開く農業であると考えます。

’96全国協同集會に期待するもの

小野瀬 裕義 (宮城県/生活協同組合仙台共同購入会)

労働者協同組合のことは聞いてはいましたが事業団とパラマウント労組のような二つの流れがあるのかなといった漠然としたイメージしか持っていませんでした。今秋、「どうする東北の地域と経済」をテーマに全国協同集會を仙台で行なうと聞き関心を持っています。私達は約9千人の組合員からなる無店舗の生協ですがこれまで食の自給と安全を基本に環境や福祉の問題にも取り組んできました。今回の集會の基本テーマや分科会の課題をみると私達の課題とほとんど共通するもののようにかなり身近かなものを感じられました。

第一の課題としてはやはり東北の主産業は農業であり、私達は生産圏における生協として今何が出来るのか、これから何を行なおうとしているのか問われていると考えています。

端的に表現するならば、国際的な食料不足が心配されるなかで、基礎的食料の自給力向上を地域経済システムづくりの基本戦略としてとらえ、地域ごとの畜産複合循環農法の確立とそのシステム形成が重要になります。

しかし問題はその主体です。後継者がいない、新規就農者がいない、農村社会が崩壊しつつあることは全てを絵に書いた餅にしてしまう危険性を持っています。従って今回、石見さんが提案しているように農業後継者の確保の一環としての農業法人の設立に労働者協同組合も一形態として参加してみてもどうかという意見に同感します。

農地法の制約がありますが、農業の担い手を個々の農家の家族経営のみに任せるのではなく、農業生産法人をつくって組織的に行なう必要があり、それを労働者生産協同組合形態でおこなえ

ば未来に向かって夢が描けると思います。

第2の課題として私達は多様な経済主体が共生する、大資本に支配されない地域協同経済の復権をめざしています。

組織化されたのはまだほんの数例にすぎませんが地域に根ざした市民事業が多様な形で始まっています。年間8千時間になった助け合いのワーカーズや1億の供給高の配送ワーカーズ、障害者のパン屋さん等々色々な動きが私達のまわりでおきておりこれらとの連携が重要になっています。

第3の課題として生協で働いている職員の問題があります。数年前の生協総研の調べでも職員の多くは普通の企業に勤めるのと同じ感覚で入協しており、他に条件の良いところがあれば転職の希望をもっているのが大半ということでした。

私達は職員数30名、パートさんが45名と規模の小さな生協ですが、労働の問題を労使問題としてしか捉えられていません。生協職員は組合員には「出資・利用・運営」を呼び掛けながら、自分では生協の運営に事業・経営にタッチしないおかしな現象が生協では起きています。

今集會の呼び掛けにもあるように、企業の民主主義と社会的責任、労働の主体性と尊厳が問われています。『労働者が社会的に意味ある働きがある労働を遂行出来るように事業・経営の基本方針の策定と執行に対する労働者の参加を保障出来る』具体的なシステムが提案・議論されればと以上3つの課題で期待しております。微力ですが、大会成功のために協力させていただきます。